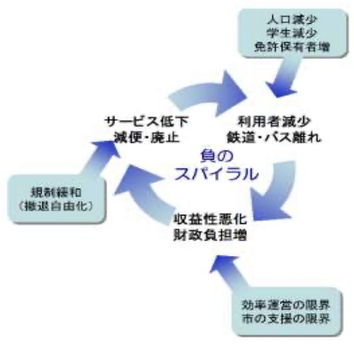
宮古市の公共交通政策と新里地域バス利用実態調査

宮古市・岩手県立大学 宇佐美ゼミ

宮古市の課題

宮古市の課題の一つに「**利用者の低迷と公共交通の衰退**」が挙げられる。人口減少や高齢化、マイカー増加で公共交通環境が悪化。市の財政負担増加が予想される中、持続可能な交通ネットワーク構築には市民議論が必要。利用者減少によるバス路線補助金カットのリスクもあり、公共交通衰退の悪循環加速が懸念される。



宮古市の目指す姿

「みんなでつくる　みんながつながる　公共交通」

①多様な交通機関が連携し「**広い市域がつながる**」公共交通の実現
⇒地域における輸送資源を総動員し、持続可能な公共交通の実現

②参画と共同による「**みんなでつくる**」公共交通の実現
⇒多様な主体が責任と役割を分かち合いながら協力する公共交通の実現

③みんなで利用し支え「**次の世代につながる**」公共交通の実現
⇒みんなが利用したくなる公共交通をつくり、様々な形でみんなが利用して支える公共交通の実現

地産地消電力のEVバス（宮古市版シュタットベルケ）

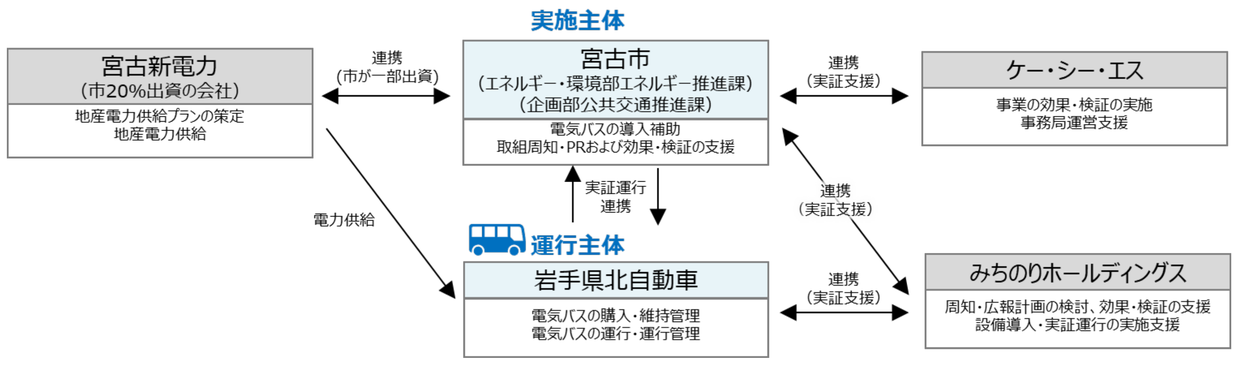
様々な**再生可能エネルギー事業へ市が資本参加することにより得られる収益を**、再生可能エネルギー基金を通じて、**公共交通の維持・確保など地域課題の解決のための財源として活用**する仕組み。

◆電力の地産地消スキームや電気バスの運行をきっかけに、市民の公共交通への関心を高める

◆公共交通の維持には市民の利用が重要であることを周知し、市民の公共交通利用を促進する

◆利用回数ならびに利用者数増加とそれに伴う運送収入増額によって、本市の課題である悪循環の脱却を目指す

◆電力の地産地消スキームを構築し、市外から調達する電力が減ることで市内の経済循環を促進する



バスと鉄道　中学生フリー定期券交付実証事業

乗車機会の創出及びその後の定着を図るため、事業者と連携し、市内中学生に「フリー定期券」を交付するもの。

◆**実施期間**＝令和６年７月１日から９月３０日の３ヶ月間

◆**対象交通機関**＝岩手県北バス、三陸鉄道、地域バス、JR山田線（R7から）

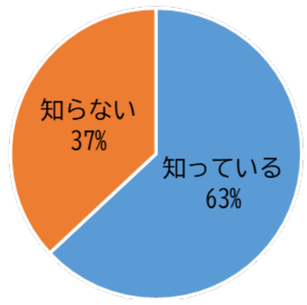
◆**利用実績**＝延べ3,697人（岩手県北バス3,211人、三陸鉄道486人）
※対象生徒数約1,000人

◆**検証結果**

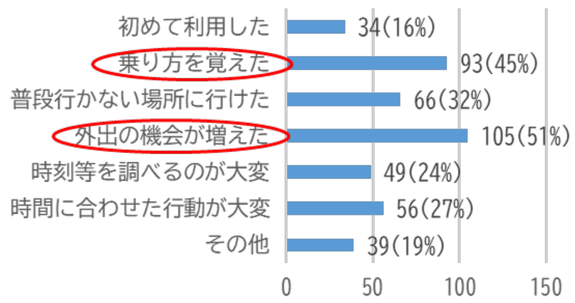
・「外出の機会が増えた」「乗り方を覚えた」という声が多く、**乗車方法の習得や乗車機会の創出に効果があった。**

・乗車方法の習得により、将来的なバス・鉄道の利用が期待される。

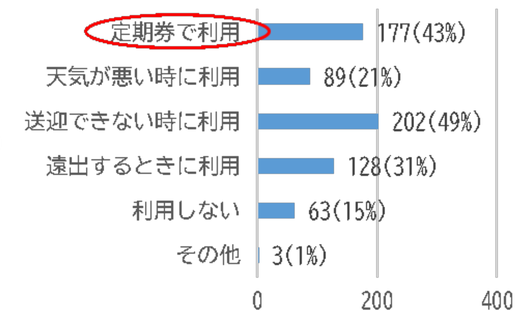
【公共交通の利用方法】



【利用した感想】



【卒業後の公共交通の利用意向】



新里（にいさと）地域バス利用実態調査

◆新里地区の概要

面積：256.29㎢
人口：2,135人
人口密度：8.3人/㎢
高齢化率：53.8%
※R7.4.1現在

◆新里地域バスの概要

新里地域バスができた経緯：
もともと新里診療所利用者向けに運行していた患者輸送バスを、誰もが利用できる地域バスに転換。
路線：岩手県北バスが廃止した和井内線を補完しつつ、地域のニーズに合わせて4路線確保。フリー乗降区間を設け、より利用しやすい運行形態に。
運賃：1回の乗車で大人100円（診療所利用の場合は無料）
回数券は2回分お得

◆民生委員の方々への聞き取り調査

目的：新里地域の住民の生活実態を把握するため
実施日：2025年7月1日
調査結果：自家用車なしでは生活が難しいという現実と車を手放した後の移動手段をどうしたらよいか分からないという住民の強い不安が感じられた。また、車の所有者が多いため、地域バスについての話題が日常的に出ないことが挙げられた。

◆新里地域バス利用実態調査

目的：地域バスの利用実態を把握するため
調査方法：聞き取り調査

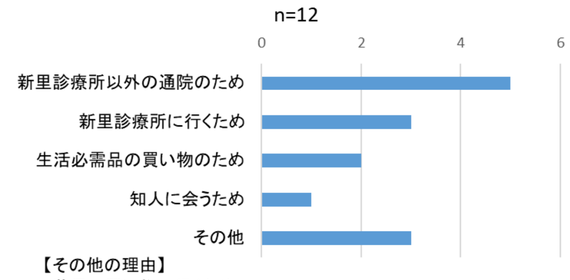
●バス車内調査

調査場所：地域バス車内
調査日：2025年8月18日、22日、9月8日
調査結果：主な利用者は75歳以上で、その目的は、新里診療所利用や買い物など様々だった。運転手は利用者の顔と名前、降車場所などを把握していることが多く、日常的に利用する方が多いことがうかがえる。運転手は利用者とのコミュニケーションを図り、常に乗る人たちへの理解と配慮が大事であることが分かった。

●サロン・診療所調査

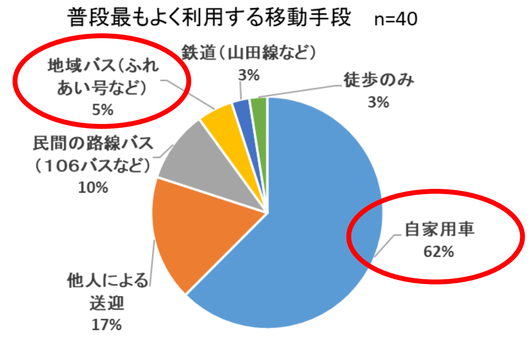
調査場所：地域サロン・新里診療所
調査日：2025年8月22日、9月8日
調査結果：新里地域の住民のほとんどが新里地域バスについて知っていたが、日常的に利用している人はあまりいなかった。その理由として、車の方が便利、ダイヤが不便などの声があった。一方、免許を返納した後は利用する予定という人もいて、地域バスの利用に関して前向きな意見もあった。

新里地域バスを利用している理由（複数回答）
n=12

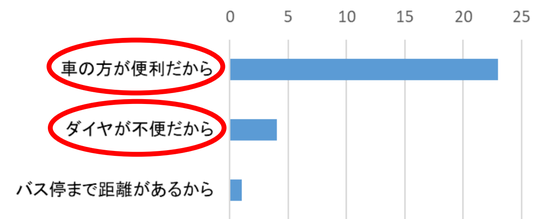


【その他の理由】
・薬局に買い物に行くため
・茂市の床屋に行くため
・老人ホームに行くため

普段最もよく利用する移動手段　n=40



新里地域バスを利用していない理由
（複数回答） n=24



◆今後について

継続的な調査・分析に基づき、地域バスのダイヤについて利用実態に即した見直しを行う。また、時刻表を利用者の要望に沿って見やすい形に改善する。あわせて、地域バスと既存の公共交通との接続性を明確に示し、その利便性を周知することで利用の促進を図る。これらの取り組みを通じ、限られた予算内で地域のニーズに合致した、効率的かつ持続的な運行形態の整備を進め、将来的には、本運行モデルを宮古市が運行する田老・川井地域バスへと展開することを目指す。

岩手県立大学地域協働研究

本発表は、地域が抱える課題として、宮古市から提案があった新里地域バスについて取り組んだ内容を含んでいます。岩手県立大学では、地域から提案された課題について本学研究者とのマッチングを経て調査研究を行い、課題解決に向けたプランを検討します。

詳細は⇒